

芝居で知って介護の仕事

東京の劇集団と高崎NPO職員ら

きついと思われがちな介護の仕事にもっと目を向けてもらおうと、「介護のお仕事紹介お芝居会」が20日に前橋、21日に桐生で開催される。出演する東京の芝居集団「お芝居テリバリまりまり」と高崎市のNPO法人「ハートフル」の職員たちが、本番に向けて合同練習に励んでいる。

「明るい姿見てほしい」



練習の合間に、高校生から寄せられた感想文を読む「まりまり」のメンバーとハートフルの職員たち。高崎市石原町

「まりまり」は3人組。メンバーは、演劇活動のかたわら家族の介護や福祉施設で働くなど介護の経験も持つ。芝居は厚生労働省の委託事業で、福島や香川を回り群馬が最後の舞台になる。

ハートフルの職員たちは7日から、事務所2階で早朝からの訪問介護やデイサービスなど仕事の合間をぬって打ち合わせや最後の仕上げに余念がない。

芝居はロシアや日本の昔話や絵本を題材にしている。気軽に見られるように一つの演目の上演時間は3分から10分と短くし、全体で五つの芝居と踊りを予定している。

「介護というと暗い、大変」というイメージがあるが、こ

んなに明るくやっている人たちがいることを見てほしい」「同じ時間をみんなと楽しみたい」。稽古会場では職員たちの笑い声が絶えない。

8日は、県立万場高校で全校生徒を前に芝居を披露した。生徒たちからは「4月から介護職に就くが、明るく頑張りたい」「楽しくやっている人たちのような介護士になりたい」「介護の仕事に興味を持った」といった感想が寄せられ、ハートフルの職員たちを感激させた。

「まりまり」の萩原はたかさんは「芝居なら観客の感性に伝えられる面がある。介護の日常のなかで芝居をやる職員は大変だと思うが、頑張っ

て明るく取り組んでいる姿をみてほしい」と話す。

上演は、20日、前橋市総合福祉会館、21日、桐生市総合福祉センターで、いずれも午後1時半から。無料。事前の申し込みが必要で、前橋会場は満席となりキャンセル待ち。桐生会場は空席がある。問い合わせはハートフル（027・325・5085）。

H22

朝日新聞

2/15